【演題募集要項】

１．プログラム： 再生医療に関する一般演題を広く募集いたします。

２．発表形式： 口頭発表　あるいは　ポスター発表

３．演題登録： E-mail による登録のみです。別紙の要領で「演題申込み」のファイルを作成し、件名を「細胞再生医療研究会演題登録」とした E-mail に、ファイルを添付して送ってください。

４．締め切り： 2024 年 7 月 31 日（水）

５．アワード： 世話人および参加者の投票により、優秀な発表者にアワードを授与します。

 　・若手研究者優秀賞：若手一般発表の発表者（40 歳未満）が対象

 　・企業研究者優秀賞：企業からの一般発表の発表者が対象

 どちらも最優秀1名（副賞2万円）、優秀2名（副賞1万円）程度に授与

６．抄録送付先アドレスおよび問い合わせ先：

 細胞再生医療研究会事務局

 〒650-0047　神戸市中央区港島南町7-1-20

 　　　　　　　　　　　　　　　　　　（甲南大学ﾌﾛﾝﾃｨｱｻｲｴﾝｽ学部内）

 TEL：078-303-1349　FAX：078-303-1495

 mail：nisikata@konan-u.ac.jp　（担当：分子細胞発生学研究室　西方敬人）

７．演題申込み方法：

 演題申込みは、次のひな形を利用し、2ページからなる書類を作成して前記の抄録送付先宛に E-mail の添付書類でお送り下さい。

 １） 発表者連絡先（１ページ目）

 演題名、氏名（発表者および責任者）、所属、住所、電話番号（内線番号）、FAX 番号、E-mailアドレス、等必要事項をご記入下さい。

 ２） 抄録原稿（２ページ目）

 ひな形にある【記入例：1】あるいは【記入例：2】のどちらかを参考に、書式等を合わせて作成をお願いします。字数制限は設けませんが、図表を含めて A4 用紙１枚以内に収めて下さい。

 尚、事務局から受領の返信をいたしますが、1 週間以上経っても受領の連絡がない場合はご連絡下さい。

８. 利益相反情報の開示について：

 発表の際にはタイトルスライドの１ページ目に利益相反情報を開示して下さい。

【発表者ご連絡先等】

1, 演題名：

2, 発表者名：

3, 所属・肩書き（学生の方は学年）：

4, 所属住所：

 〒

5, 責任著者名：

6, 責任著者所属・肩書き（発表者と同じであれば、「発表者名と同じ・教授」等と記載）：

7, 責任著者所属住所（発表者と同じであれば、「発表者名と同じ」と記載）：

 〒

8, 電話番号（内線番号）およびFAX 番号：

 TEL：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　FAX：

9, E-mailアドレス：

10, アワード希望の有無：**□**　（希望の場合は□にチェックを入れてください）

11, アワード希望種別（希望アワードの□にチェックを入れ、（）内を記入してください）

**□**若手研究者優秀賞（発表時の満年齢：　　　　　　　　歳）

**□**企業研究者優秀賞（入社後の年数：　　　　　　　　年）

【抄録原稿】

**【記入例：1】**

【記入例：1】等は消して下さい。タイトル行の上の改行は、全体のバランスを考慮して残して頂いても結構です。

増殖因子の皮膚内注入による皮膚の粘弾性の改善効果について

一橋　正満

ご所属は、主要なものを適宜選択してご記入下さい。

札幌医科クリニック　院長

ポートピア大学医学部　特任講師

 太陽紫外線ＢとＡがしわ形成に関与していることが1990年代より遺伝子・分子レベルで明らかにされてきた。いずれの紫外線も活性酸素を介して真皮の線維タンパク質コラーゲンや弾性線維を分解する酵素matrix metalloproteinases (MMPs)のmRNAとタンパク質レベルを亢進させるため、しわが誘導されることを示唆する結果が多い。一方、これらの酵素活性を抑制するtissue inhibitor of metalloproteinases (TIMP)も紫外線で発現が上昇するが、MMPsの活性を抑えるほど高くはないためコラーゲンが切断され減少する結果しわが形成されると考えられている。さらに、近年赤外線Ａ（760 nm~1400 nm）が、紫外線同様に活性酸素を介して細胞シグナル系を介しMMPsの活性化を誘導し、しわ形成に係わっていることを示す研究結果が多数報告されている。また、赤外線では温度が43℃を超えるとしわ形成にかかわるといわれている。現在までの多くの論文からしわ形成に関する重要なものを紹介し、しわのない若々しい皮膚を維持する方法を考えたい。

**略　歴**

1920年3月　神戸大学大学院医学研究科修了

1920年〜1940年　兵庫大学医学部附属病院　助教授

1941年4月　神戸大学医学部　教授

2020年3月　神戸大学医学部　退官（名誉教授）

2020年〜　　札幌医科クリニック　院長

2020年〜　　ポートピア大学医学部　特任講師

書式は、

上下の余白＝30 mm

左右の余白＝25 mm

本文のフォントはMSP明朝、10.5 point

英数字はTimes New Roman

タイトルのフォントはMSPゴシック、14 point

タイトルの英数字はMSPゴシック

お名前ご所属は、MSP明朝で

それぞれ14, 12 point

基本的に行間は1行分ですが、行数が不足するようであれば、適宜行間を縮めて頂いても構いません。ただし、A4で1ページに収めて頂ければ幸いです。

略歴は、特に書式を定めません。受賞歴等も、適宜含めていただいて結構です。インデント等、適宜ご工夫いただき、見やすいようにお願いします。

**【記入例：2】**

【目的】等の項目は、適宜変更頂いても構いません。

著者が複数の場合は、上ツキ片カッコの数字でご所属との対応付けをお願い致します。また、ご身分の記載はご判断にお任せ致します。

マクロファージの分泌因子がケラチノサイトに及ぼす影響

南方　熊人1)、東方　志功1)、北方　謙二2)

1)甲南大学　フロンティアサイエンス学部

2)甲南大学　ヒトの健康科学研究所

【目的】　創傷治癒において、表皮の大部分を構成するケラチノサイトは、初期段階でサイトカイン等の放出によってマクロファージ等を誘引する免疫応答を惹起し、創傷治癒の最終段階では、ケラチノサイトによる再上皮化が起こる(1,2)。本研究では、その機能を明確にすることを目的としている。

【材料と方法】　ヒト単球様細胞株であるTHP-1細胞を100 pg/ml LPS + 20 ng/mL IFN-γを添加した培地で42時間培養を行い、活性化した。HaCaT細胞培養液に添加し、スクラッチアッセイ、細胞移動のTime-lapse解析、DNAチップによる遺伝子発現解析、等を行った。

【結果および考察】　MTT試験による細胞増殖の評価では、コントロールに比べ有意な差は観察されなかった。一方、培養上清添加によりケラチノサイトがやや凝集し、平均移動距離が約1.7倍に増加していた。ス遺伝子発現の変化としては、Keratin 10の発現が減少する一方で、Keratin 6, 16, 17やLaminin 5とその受容体として知られるIntegrin α6β4, α5β1の発現増加が見られ、再上皮化における増殖や遊走に関与すると言われているsupra-basalと呼ばれる細胞の性質を強く示すことが明らかになった。さらに、VEGFの産生も促進されており、血管新生を促進させる可能性も考えられた。

【結論】　今回の結果では、マクロファージの分泌因子がケラチノサイトの性質を大きく変化させ、遊走能の亢進など再上皮化を促進する可能性を示唆した。この効果は創傷治癒を促進すると期待され、さらには皮膚組織の恒常性の維持を通して慢性創傷や皮膚再生への貢献も期待される。

【参考文献】

1. Piipponen M, Li D, Landén NX. *Int. J. Mol. Sci*, 21(22), 8790 (2020).

2. Chloe S, Kim *et al*. *Bioengineering & Translational Medicine*, 4(3), e10138 (2019).

**略　歴**（筆頭著者）

2009年3月　甲南大学大学院医学研究科修了

2009年〜2018年　株式会社　島流　営業部

2018年4月　甲南大学　フロンティアサイエンス学部　教授